



宇佐美の森を守る会、NPO法人伊東里山クラブ（伊東市/静岡県）

地域特性

大丸山は、JR伊東線宇佐美駅から巣雲山へのハイキングコースの途中にある山で、変化に乏しいヒノキの人工林が広がっていました。また、大丸山からは富士山や相模灘を一望できます。

きっかけ

平成16年10月、伊豆半島に上陸した台風22号により、大丸山の頂上から海側の人工林では多くの風倒木が発生しました。また、山腹崩壊によりハイキングコースがふさがれました。翌年、「宇佐美の森を守る会」が宇佐美区の公式組織として発足し、NPO法人伊東里山クラブなども協力したことが森づくりのきっかけです。

何を目指したか

駅からの近さや巣雲山へのハイキングコースを活かした山のあり方を考え、景観づくりを意識した四季を彩る広葉樹や花木の植栽により、自然を活かした伊東市の観光資源として育てることを目指しました。

何をやったか＜回復＞

県の森の力再生事業による倒木処理を行うとともに、山腹崩壊により途絶えたハイキングコースを別ルートで整備しました。また、苗木の提供などを受けるとともに緑の募金事業等を活用し、新たなハイキングコース及び倒木跡地にモミジ、カエデやドウダンツツジ、ヒュウガミズキなど見て楽しめる樹木の苗及び種子を約2,000本植えました。その後、未開だった第2峰の富士見展望広場を整備し、大丸山一周コースも完成させました。ハイキングコースの景観が改善し、かつては変化に乏しいヒノキ林に覆われた全くの無名の山でしたが自然景観の心地よさを感じる首都圏からのハイカーが多く訪れるようになりました。また、地元の宇佐美小学校3年生の遠足コースとして活用され、参加した子どもたちは自らの町を一望するとともにヒノキの皮むき等の体験学習を通じて、地域住民の参画により大丸山を守り育て続けていることを説明しています。

主な課題

＜仕組み＞

苗木の植樹をしたものの鹿の食害により森林回復に遅れが生じました。→解決策は後述

＜人（主体）＞

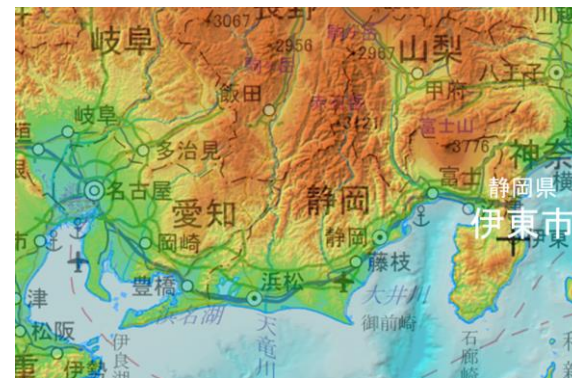
風倒木跡地は広く、倒木処理や植樹、森林整備の担い手が必要でした。
→解決策は後述

関連予算

森の力再生事業（静岡県）、森林・山村多面的機能発揮対策交付金（林野庁）、一般財源（伊東市）、緑の募金事業（（公社）静岡県緑化推進協会（当時））、活動費助成（「小さな親切」運動静岡県本部）

問い合わせ先

NPO法人伊東里山クラブ（090-6574-5019）



●期待される効果

国土管理

- ・風倒被害の生じた斜面林の回復

自然共生

- ・モミジ等の植林による自然景観の創出
- ・風倒木跡地の森林再生

防災・減災

- ・風倒木跡地の森林再生による土砂災害防止機能等の回復

地域づくり

- ・ハイキングコースの景観向上による来訪者の増加
- ・地元小学生の体験学習を通じた山と地域の関係づくり

●取組のステップ

平成17～24年

風倒木被害からの回復

台風被害の翌年、地元住民が「宇佐美の森を守る会」を立ち上げ、荒廃した山の倒木を処理し、寸断されたハイキングコースの別ルートでの整備などに着手しました。この活動に森林整備活動を行うNPO法人伊東里山クラブも加わり、「静岡県森の力再生事業」を活用して、平成19年度から2年間で、倒木処理を行うほか、治山も行われました。風倒木跡地の再生は、自然に任せる考えもありますが、大丸山の立地を活かした再生のあり方を話し合われ、県に苗木提供を要望した10種類253本を植えるイベントを開き、植樹活動のきっかけにしました。



倒木処理や植樹のボランティア作業（伊東里山クラブだよりブログより）



平成25～28年度の4年間は、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用し、宇佐美の森を守る会、亀石・城間山の会、NPO法人伊東里山クラブ、宇佐美区で「宇佐美 フォレスト協議会」を発足し、周辺の森林の整備や、植栽樹保育、新たな大丸山1周コースの遊歩道を整備しました。また、伊東市事業による未開の第2峰に富士見展望広場の整備も行いました。



大丸山マップと富士見展望広場の整備風景（伊東里山クラブだよりブログより）



人件費の財源となっていた助成事業が終了し、今後は、整備した森林とハイキングコースを宇佐美の森を守る会が維持管理していきます。NPO法人伊東里山クラブは、大丸山に通じる他の登山道沿いの景観づくりに取り組んでいこうと地域に働きかけています。

今後の展望

平成25年～28年

新たなハイキングの魅力づくり

●得られた知見（課題と対応詳細）

<仕組み>

□苗木の食害への対処

植樹した苗木が鹿による食害を受けましたが、漁協の協力を得て不要になった網をもらって防護ネットを整備し、静岡県の「森の力再生事業」による苗木の提供も平成21年まで受けることができ植樹が拡大できました。

茎の先端がシカ等の食害を受け成長できない



（H24整備）伊東市宇佐美

出典「森の力再生事業10年間の取組」平成29年3月、静岡県経済産業部森林・林業局森林計画課

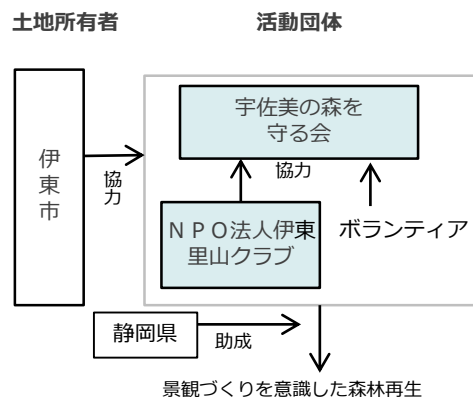
<人（主体）>

□担い手の確保

平成21年の植樹イベントは、秋の森づくり県民大作戦として「小さな親切」運動、ボーイスカウト、ガールスカウト、宇佐美民宿おかみ会、NPO法人森のボランティアなどの団体や一般参加者の参画により60人規模の行事となりました。植樹活動はその後春、秋の行事で継続してきました。現在、宇佐美の森を守る会が広い植樹場所の下刈りや防鹿ネットの補修、ハイキングコースの維持管理を計画的に進めています。同会は、宇佐美区の各町内役員が毎年約30人選ばれており、重要な担い手となっています。

●仕組みや体制

風倒木処理とハイキングコース再整備から景観づくりを意識した森林再生へ



大丸山一周コース整備へ

